

V 活動プログラムについて

1 活動プログラム実施の留意点

- (1) 提出された「活動プログラム」に沿って活動してください。ただし、天候等により計画変更の際はご相談ください。
- (2) 活動については、各団体で責任を持って指導にあってください。基本的に職員による直接的な指導は行っていません。ただし、事前に講師依頼された活動（P30参照）については、当施設の講師が指導に当たります。
- (3) 野外活動には危険が伴うことがあります。けがや事故のないように指導にあってください。できる限り事前打合せを十分に行ってください。
事故防止の3原則：「あわてない」「無理をしない」「仲間と離れない」

2 利用前の準備

(1) 事前指導

ねらいにそって効果的な活動ができるように、次のことを説明してください。

- ① 自然の家の利用についてのねらいや心構え
- ② 活動のねらい・内容・方法
- ③ 自然の家での生活の仕方
- ④ 班編成や役割分担
- ⑤ その他

(2) 持ってくる物

- ① 団体に用意するもの
 - 活動に必要な用具 ●救急用具 ●緊急車両（乗用車1台以上） ●その他、団体に必要なもの
- ② 個人で用意するもの
 - 野外活動のできる服装（夏でも長袖・長ズボンが必要。サンダル履きはおすすめしていません。）
④沢活動の服装については、別冊の沢活動資料集を参照ください。
 - 上履き（運動靴） ●雨具 ●軍手 ●デイパック ●水筒 ●懐中電灯 ●タオル ●洗面用具
 - 筆記用具 ●健康保険証（コピー可） ●その他、活動等で必要なもの

3 自然の家に到着したら

(1) 出会いのつどい

- ① 各学校・団体に企画し、実施してください。要請があれば、職員も出席します。
- ② 校旗・団旗等を掲揚する団体は、持参の上、掲揚してください。

(2) シーツと枕カバーの受取

シーツ貸出場所(P19を参照)で、団体名が記名してある棚からシーツと枕カバーをお持ちください。また、余ったシーツはそのまま棚に置いてください。(不足があれば、予備の棚からお持ちください。)
(一人分は、シーツ2枚、枕カバー1枚)

(3) ベッドメイキング

P12を参照ください。

4 自然の家を出発するまで

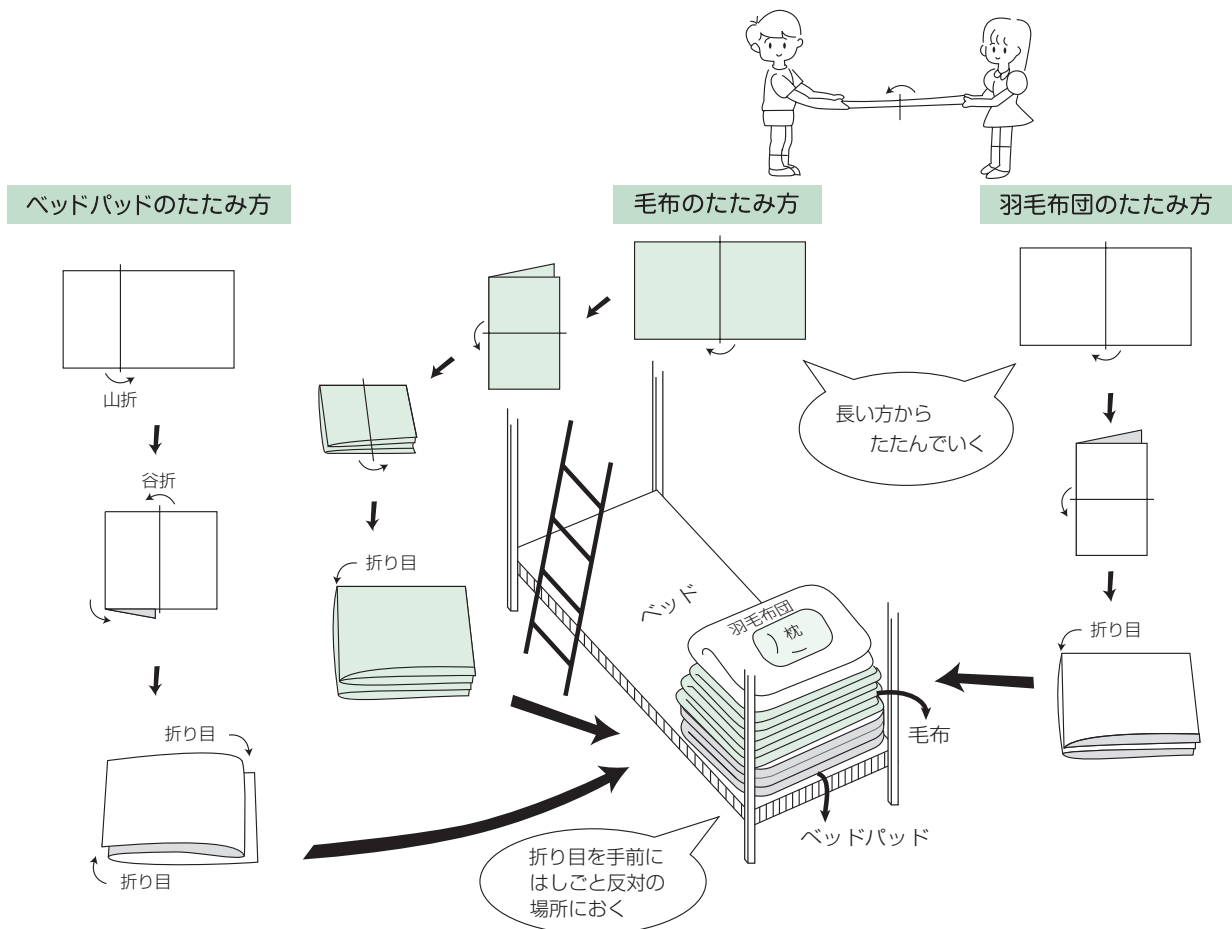
(1) 後片づけ

自然の家利用の最終日は、次のことを行ってください。

① 寝具をたたむ

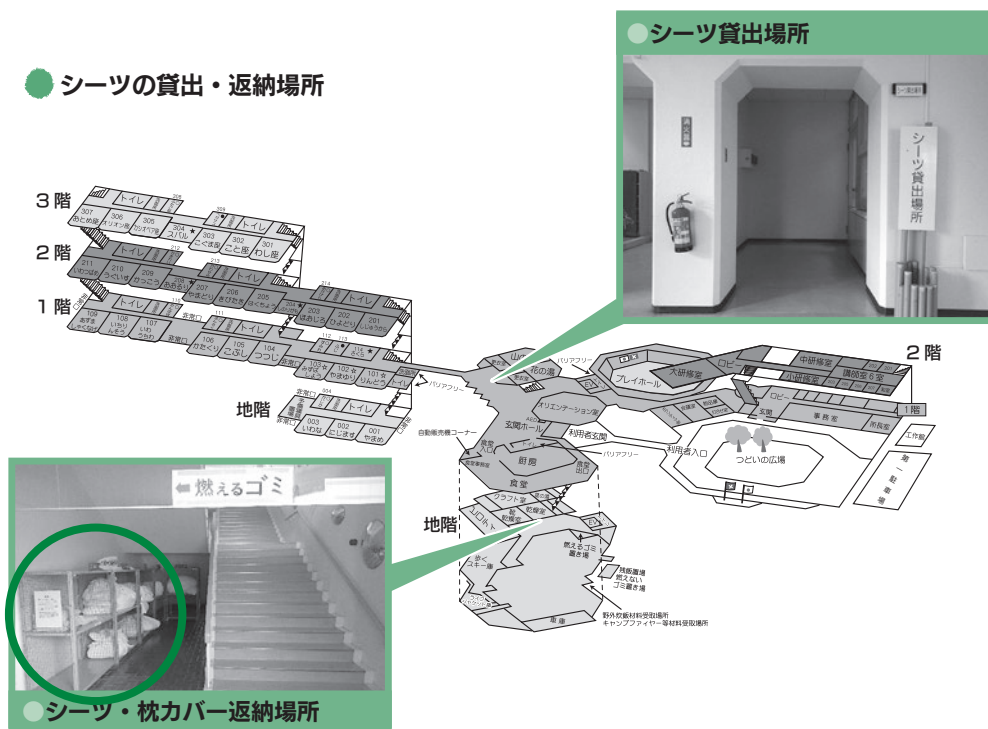
④毛布と羽毛布団のたたみ方と置き方は、下記のとおりです。

- ア. ベッドパッドをたたむ (Z型に三つ折)。
- イ. 毛布をたたむ (3回折る)。
- ウ. 羽毛布団をたたむ (2回折る)。
- エ. 折り目を手前に出し、枕を上のにのせる。
- オ. ハシゴの反対の場所に置く。



② シーツ・枕カバーの返却

「シーツ・枕カバー返納場所」(地階)にお返しく下さい。



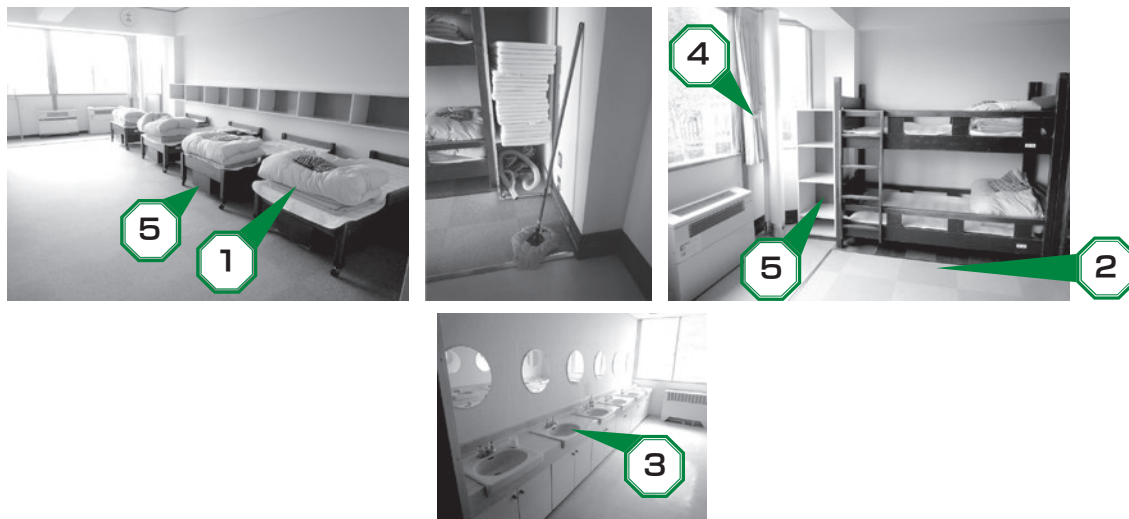
③ 寝具の汚損

備え付けの寝具(布団、毛布等含む)を汚損した場合は、必ず事務室までお持ちください(嘔吐、出血等の場合は、ウイルス感染のおそれがありますので、汚損寝具を入れるための袋をお渡しします)。また事務室にて汚損届の記入をお願いします。

④ 宿泊室等の清掃、整理整頓

宿泊室や通路にある掃除機、モップ等を使い、宿泊室と清掃分担場所の清掃をお願いします。

お部屋の清掃チェックポイント



- 1.寝具は、正しくたたみましたか?
- 2.ベッドの下の**綿ほこり**を**モップ**で集めて、**掃除機**で吸いましたか?
- 3.お部屋以外の清掃分担場所になっている**洗面所**や**廊下**、**階段**の掃除はしましたか?
- 4.**カーテン**は開けて、**ストラップ**で縛りましたか?
- 5.お部屋の棚や引き出しに**忘れ物**はないですか?

※1.詳しくはお部屋に貼ってある**清掃の方法**をご覧ください。

⑤ 荷物の移動

荷物をプレイホール2階にあるギャラリーの荷物置き場に移動してください。

⑥ 部屋の点検

清掃と荷物の移動が終了しましたら、事務室にご連絡ください。職員が宿泊室および清掃分担場所の清掃状況を点検させていただきます(8:40以降)。その際、団体の指導者の方の立ち会いをお願いします。



プレイホールにある荷物置き場

(2) 別れのつどい

- ① 各学校・団体で企画し、実施してください。要請があれば、職員も出席します。
- ② 校旗・団旗等を掲揚している団体は、この時点で降納してください。

5 プログラム作成の基本

プログラム作成に当たっては、四季折々の自然体験や生活体験等を基本に活動相互につながりを持たせ、ゆったりとしたプログラム作成をしてください。

(1) 活動のねらいをはっきりと!

何のために
どんな力を
どんな体験を

- ①自然とのふれあい(自然観察・自然体験)の重視
- ②人とのふれあい(グループ活動・他団体)による集団づくり
- ③生活体験(宿泊・食事・入浴等)による基本的な生活習慣・態度の育成

(2) 施設やフィールドをよく知って!

どんなフィールドか
どんな活動ができるか
どんな設備があるか

- ①ガイドマップで全体像を把握
- ②施設・活動場所・活動プログラム・物品等の有効活用
- ③資料や講師等の効果的な活用
- ④事前打合せの実施

(3) 指導体制を明確に!

代表者任せにしない
引率者全員が共通理解し行動を

- ①役割分担の明確化・実行、連絡体制の確立
- ②活動時間・場所の確認
- ③目的に沿った共通行動

6 プログラム作成上の留意点

(1) 目的を具体的に!

- ① 『△△のために〇〇をする』のように、ねらいをはっきりさせてプログラムを考える。
- ② 参加者の年齢や人数、指導者（教師または引率責任者）の力量や人数を考慮してプログラムを考える。

(2) 自然体験を基本に!

- ① 四季折々の大自然の中での活動を基本にする。
- ② 選択活動の導入、収集した素材の創作活動での活用、荒天時のプログラム等、プログラムを工夫する。
- ③ 講師・施設・設備を有効に活用する。
- ④ 身体的・精神的負荷を考慮し、メリハリのある活動内容と活動時間を設定する。

(3) 子どもの考えを生かして!

- ① 発達段階・体力差を考慮し、主体的で自発的かつ安全な活動ができるようにする。
- ② 児童・生徒および学生が中心となって企画・運営し、指導者（教師または引率責任者）は支援者として見守る。

(4) 時間的なゆとりを!

- ① 自然が相手の活動であることや他団体との関連も考慮する。
- ② 自然の家での生活時間（食事・入浴・睡眠等）を大切にす。
- ③ 事前実地踏査でのコースタイム等を参考にして、活動時間に余裕を持たせる。

(5) 安全・健康管理を!

- ① 事前の健康調査（病気、常服薬、食事制限等）、活動前の健康チェックを必ず行う。
- ② 緊急車両と運転手を準備し緊急時に備える。
- ③ 実地踏査でフィールドを知り、注意箇所を把握して危険を事前に回避する。

(6) 活動をふりかえる時間を!

活動での学びや気づきを定着させ、お互いに考えを共有するためにも、活動終了後に感想発表等の時間を設ける。

(7) 医療機関等について

所周辺医療機関について

体調が悪く受診したい際や、不慮の負傷や事故の際は、応急的な措置の後、最寄りの病院を紹介します。
医療機関および連絡先等については、P55を参照ください。